

2014年7月7日 掲載 輸送新聞社

貨物運送事業 が黒字へ転換

DTHD

第一貨物などを傘下に置く

持ち株会社ディー・ティー・ホールディングス（武藤幸規社長）は6月27日、2014年3月期の業績を発表した（関連人事6面）。

売上高は1087億3200万円、営業利益が24億7900万円、経常利益が23億1600万円、当期純利益が10

億4500万円、1株当たり配当金は10円。

事業別の売上高と営業利益は次のとおり。物流関連が売上高754億7100万円、営業利益8億4100万円。自動車販売が売上高280億2700万円、営業利益9億6100万円。不動産賃貸が売上高6億4300万円、営業利益4億4300万円。その他が売上高45億9千万円、営業利益2億3300万円。

持ち株会社設立は一昨年の10月となり、初年度となる昨年度とは数字の単純比較ができないため、いずれも前年同期比は発表していない。

物流関連事業については、ロジスティクス事業において最大顧客である家電量販店の扱いエリアの一部撤退で、売り上げを減少させた反面、貨物自動車運送事業が年間を通して堅調に推移し、消費税増

税前の駆け込み需要などもあり大きく売り上げを伸ばさせた結果、トータルでは売上高微増を確保、あわせて徹底的なコスト削減と効率化を実施したことにより、損益面では黒字転換を果たすことができたとしている。